

現地での活動は9回目 発災から2年半、被災地に赴きました

能登町集落で、キリコ祭りのお手伝い

日時：2025年8月24日(日)～26日(火) 2泊3日

場所：石川県能登町不動寺集落

参加：学生8名、引率2名 計10名

内容：コロナ禍、震災で中断されていたキリコ祭りのお手伝い

＊能登町不動寺での活動について

24軒の小さな山間集落です。近年はコロナ禍、震災、担ぎ手不足の影響で、キリコ（大きな灯籠）は展示のみとなっていました。神戸学院生の参加で、数年ぶりに担がれることになりました。



◆参加学生の感想◆

人と人とのつながりを大切にする地域性、そこから生まれる力に無限の可能性を感じました。キリコのお祭りは5年ぶりの開催で不動寺の方たちも楽しみな半分、不安な気持ちも半分だったと思います。被災を感じさせないぐらい皆さんの一体感が素晴らしかったです。その一員になれたことが凄く嬉しいです、誇りに感じています。

「被災地にはこういった対応が望ましい」ということを学んだからといって、それが全てその人にとって最適ではない。視野を広げることが大切だと聞いて、将来社会福祉に携わりたい身としてすごく心に響きました。利用者様を教科書の事例と似たようなパターンに当てはめることが出来ても、その人特有の事情もある。視野を広げて行動出来る人間でありたいと改めて感じました。

キリコ祭りとは

江戸時代から連綿と続く能登の「キリコ祭り」は、能登一円の住民が参加する大イベントです。

7月から10月の間、各地の氏子たちが、能登固有の意匠をもつ、華麗な風流灯籠「キリコ」を担ぎ出し、町内を勇敢に練り回ります。キリコ祭りは、平成27年4月に「灯り舞う半島 能登～熱狂のキリコ祭り～」として、文化庁の「日本遺産」に認定されました。



女子学生も頑張りました。
肩に赤いあざが…

長坂ふれあいの
まちづくり協議会
&
神戸学院大学
ボランティア
活動支援室

地域と大学をつなぐ防災情報誌

VOL.18

2025
autumn

いっせーのせ

発行

この人に会いたい！

神戸市西消防署消防防災課

写真左：北山さん 右：前田さん

北山 知己さん・前田 武士さん

10

❖ 顔の見える関係づくりが、防災・減災につながる ❖



神戸市西消防署は、火災や災害への対応、救急活動、地域の防災支援を行う「消防防災課」と、火災予防の広報や設備点検、職員の支援を担当する「総務査察課」で構成されており、今回取材したお二人は、地域の防災活動を支える消防防災課で活躍されています。

日頃からできる防災対策について、ポイントを教えてくださいました。1つは「地域の人と日常的にコミュニケーションを取る」こと。災害時には地域での助け合いが欠かせないため、普段から顔の見える関係を築いておくことが大切だと話されていました。

学生からの質問に
熱心にお答えいた
だきました



もう1つは「避難時に持ち出す物品を準備しておく」こと。特に水と非常食は、最低でも3日分は備蓄しておくようにとのことです。定期的に備蓄品を確認し、消費期限が近い非常食は食べて補充する「ローリングストック法」を活用することで、無理なく継続的な備えが可能になります。また、非常持ち出し品を1か所にまとめて保管していると、浸水や建物の倒壊などで持ち出せなくなるリスクがあるため、複数の場所に分けて保管する「分散備蓄」も重要だと教えていただきました。

さらに、学生をはじめとする若い世代に、「ぜひ積極的に防災訓練に参加したり、SNSを活用して防災の知識を広めたりすることで、地域とのつながりを深めてほしい」とのメッセージをいただきました。

取材 大島 有未（心理学部3年）



お詫びと訂正

前号（VOL.17）「この人に会いたい！」に誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。
シリーズ番号 （誤）No.8 → （正）No.9

いっせーのせ
VOL.18

2025年10月1日発行

防災情報誌「いっせーのせ」は
長坂ふれあいのまちづくり協議会と
神戸学院大学ボランティア活動支援室が
年4回発行する情報誌です。
学生が記者となり、地域のフレッシュな
情報を発信していきます。

Publisher

長坂ふれあいのまちづくり協議会
神戸学院大学ボランティア活動支援室

Contact

神戸学院大学 ボランティア活動支援室
〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518
TEL: 078-974-1551（大学代表）
E-mail: kgu-vc@j.kobegakuin.ac.jp

いっせーのせ！



長坂地域ブロック防災訓練 開催！

2025年7月20日（日）、長坂地域福祉センターにて行われました「長坂地域ブロック防災訓練」（主催：長坂ふれあいのまちづくり協議会・長坂校区防災福祉コミュニティ）の様子を紹介いたします。神戸学院大学からは学生13人が参加しました。



水圧でずっしりと重くなったホースを使い、放水体験！

屋外で、消防団による「放水訓練」が行われました。天気も良く、参加した小学生たちは普段見ることのできない放水を楽しんでいました。実際にホースを触り、貴重な体験になったと思います。体験しておくことで、実際の火災に遭遇したときに少しでも適切な行動をとることができればと思います。

室内では、人形を用いて実際の現場に近い状況でのAED講習などを行いました。心臓マッサージのポイントや注意点を教わりながら取り組みました。ほかには、ジャッキアップを使用して重石の下の人形を救出する訓練が行われました。普段使用しない器具を使用しながら、救出方法を体験することができました。



AED（自動体外式除細動器）の使い方と、心肺蘇生法を学ぶ。大切な命を救うためにも、日頃の訓練が大切です。

消防団の方にインタビュー ——防災訓練で伝えたいことは？

火災の場では自分の身を守ることを第一優先に考えてほしい。もしも自分がケガをしたり身動きがとれなくなったりしたら、周りの人に知らせることもできなくなってしまう。そうならないように火事の現場に居合わせたら、まずは自分の安全を確保してほしい。

——大切にしていることは？

火災の場ではいかに冷静に判断し行動できるかが重要である。そのため周囲の状況をよく確認し、広い視野をもって行動することを心がけている。



ジャッキを使い、倒壊した建物に挟まれた人を救出するための訓練！

現代社会学部3年 久保田一平さんにインタビュー

参加してくれた子どもたちとコミュニケーションを取るのに苦戦しましたが、自分から話しかけたり、目線を合わせたりして話しやすい雰囲気を作ることができるよう、工夫しました。今回の経験を活かして、子どもたちが楽しめるような雰囲気で活動がしたいです。

今回インタビューに答えていただいた消防団の方は、普段は農協で働いておられます。消防団の活動は月に1度程度行っておられます。しんどいときや忙しいときもありますが、やりがいをもって参加されているとのことでした。

防災訓練など地域防災は、住民の方々のボランティアな参加によってなりたっていると実感しました。

取材 経営学部3年 角川 陽哉



災害時に役立つ物、使える物の展示
知恵の輪は避難所の子どもたちのために



神戸市西区の障害者 支援の店をお手伝い



お店の様子と販売物

神戸市西区役所3階の多目的スペース「こべや」で毎月開設される「はっぴ〜にしNIKOSHOP」に、8月20日、28日、29日の3日間、ボランティアで参加しました。

「はっぴ〜にしNIKOSHOP」は障害のある方や障害福祉サービス事業所について理解を深めること、事業所製品の販路拡大を目標にKOBЕ・WEST・NET（神戸市西区自立支援協議会）と神戸市西区社会福祉協議会が連携し、障害福祉サービス事業所の事業所製品のPR、販売を行っている活動です。

神戸学院から2人が参加し、活動啓発のチラシ配りのほか、お菓子、コースターなど販売ブースの設置を行いました。チラシを受け取ってくれる方も多く、やりがいを感じられる活動となりました。

取材 総合リハビリテーション学部1年 山田 愛子